

人工マウンド礁の効率的な築造方法に関する研究

琴浦 毅¹⁾, 佐貫 宏²⁾, 熊谷 隆宏¹⁾, 小宮 一成³⁾, 清水 英久⁴⁾

Efficient Construction Method of Artificial Rubble Reef

Tsuyoshi Kotoura¹⁾, Hiroshi Sanuki²⁾, Takahiro Kumagai¹⁾, Kazunari Komiya³⁾ and Hidehisa Shimizu⁴⁾

■ 要 旨 ■

土運船から石材を直投方式で行う人工マウンド造成は、長手方向である船首尾方向の拡散が課題となる。それに対し、著者らは図-1に示すシート工法を開発し、実験を実施し、定性的にその効果を確認した(図-2)。また、シート工法を水深85mの現地にも適用し、その拡散抑制効果が現地でもあることを明らかにした(図-3)。

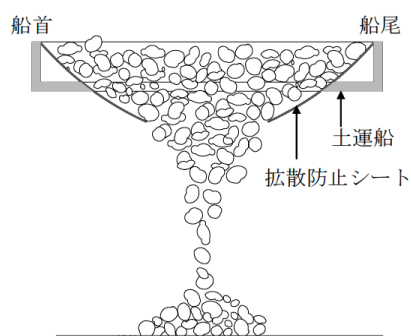


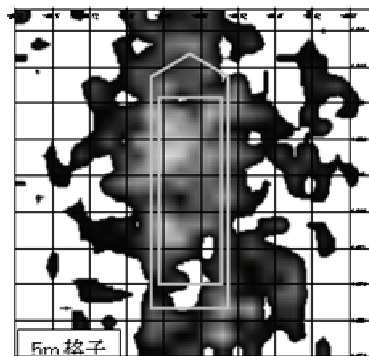
図-1 シート工法イメージ図



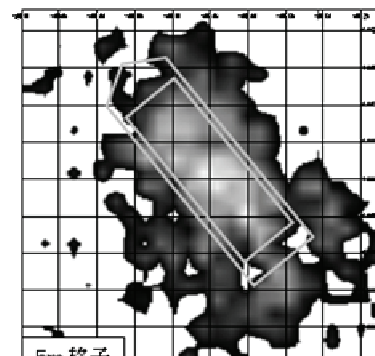
図-2(1) 開口直後(シートあり)



図-2(2) 投入状況(シートあり)



(1) シートなしの拡散状況



(2) シートありの拡散状況

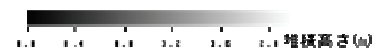


図-3 現地での投入結果

1) 技術研究所
2) 北陸支店
3) 九州支店
4) 本社 土木営業本部

* 海洋開発論文集, 第 24 卷(2008) 土木学会, pp.393-398 掲載